

# 鶴ヶ丘稲荷神社古墳(鶴ヶ島市)

ここは鶴ヶ島市松ヶ丘にある境公園



これがその公園内にある鶴ヶ丘稲荷神社古墳/ここより北東側約50メートルに所在したが、宅地化により消滅、墳丘・石室・周堀をここに復元したもの/南西側から見たところ/丁度、正面向こうに消滅した鶴ヶ丘稲荷神社古墳があった





石室と古墳の高さについては発掘調査で判明した原寸大に、そして墳丘の大きさや周溝などは原寸の二分の一の大きさに復元されている/7世紀後半(終末期)の方墳/南側から見たところ





これは東側から見たところ





これは北側から見たところ





説明板が立っている/その後ろに見えるのは石室



方形の墳丘の外側に平坦な基壇状の施設を巡らせ、さらにその外側に断続的な周堀があるというあまり他に例を見ない特異な古墳らしい

# つる が おか いな り じん じゃ こ ふん 鶴ヶ丘稲荷神社古墳

この古墳は、住宅・都市整備公団（現在の都市基盤整備公団）が行った川越・鶴ヶ島土地区画整理事業に伴い、昭和58年から昭和59年にかけて発掘調査が行われました。調査の結果、古墳の中央に遺体を埋葬する横穴式石室が設けられていることや周堀が四角くめぐり方墳であることが、確認されました。

しかし、石室の天井や壁の一部は、後世の人によって壊されていたり、あるいは盗掘にあったためか、石室からは僅かなものしか出土しませんでした。この古墳は、埴輪がなかったことや、石室の形から古墳時代の終わりに近い7世紀後半に、造られたものと考えられます。

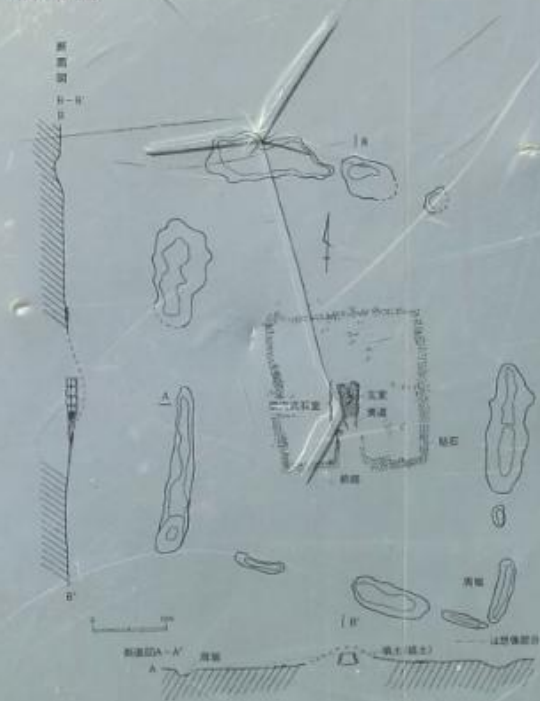
鶴ヶ島の古代史を知る上で、この地点から北東50mのところまで発掘調査されたものを、ここに復元しました。石室の大きさと古墳の高さは元の古墳と同じにし、その他は1/2の大きさにしました。従って、古墳を正確に復元したものではありませんが、古墳とはどのようなものであるかを、知ることができるでしょう。

なお、古墳のまわりは鶴ヶ丘遺跡と呼ばれ、発掘調査によって旧石器時代（今から1万2、3千年前）から平安時代までの長い間にわたり、人々が生活していたことがわかりました。

平成13年3月

鶴ヶ島市教育委員会

模式図



石室—遺体を納める部屋  
羨道—石室への通路  
基壇—盛土の流れるのを防ぐ石  
前庭—石室の入口へ通じる道  
(カラーコンクリートで表しました。)

周堀—古墳の威容を強調するとともに墓域の限界を示す  
(本当は、深く掘られていましたが、カラーコンクリートで表しました。)

航空写真



写真提供 埼玉県立埋蔵文化財センター

位置図

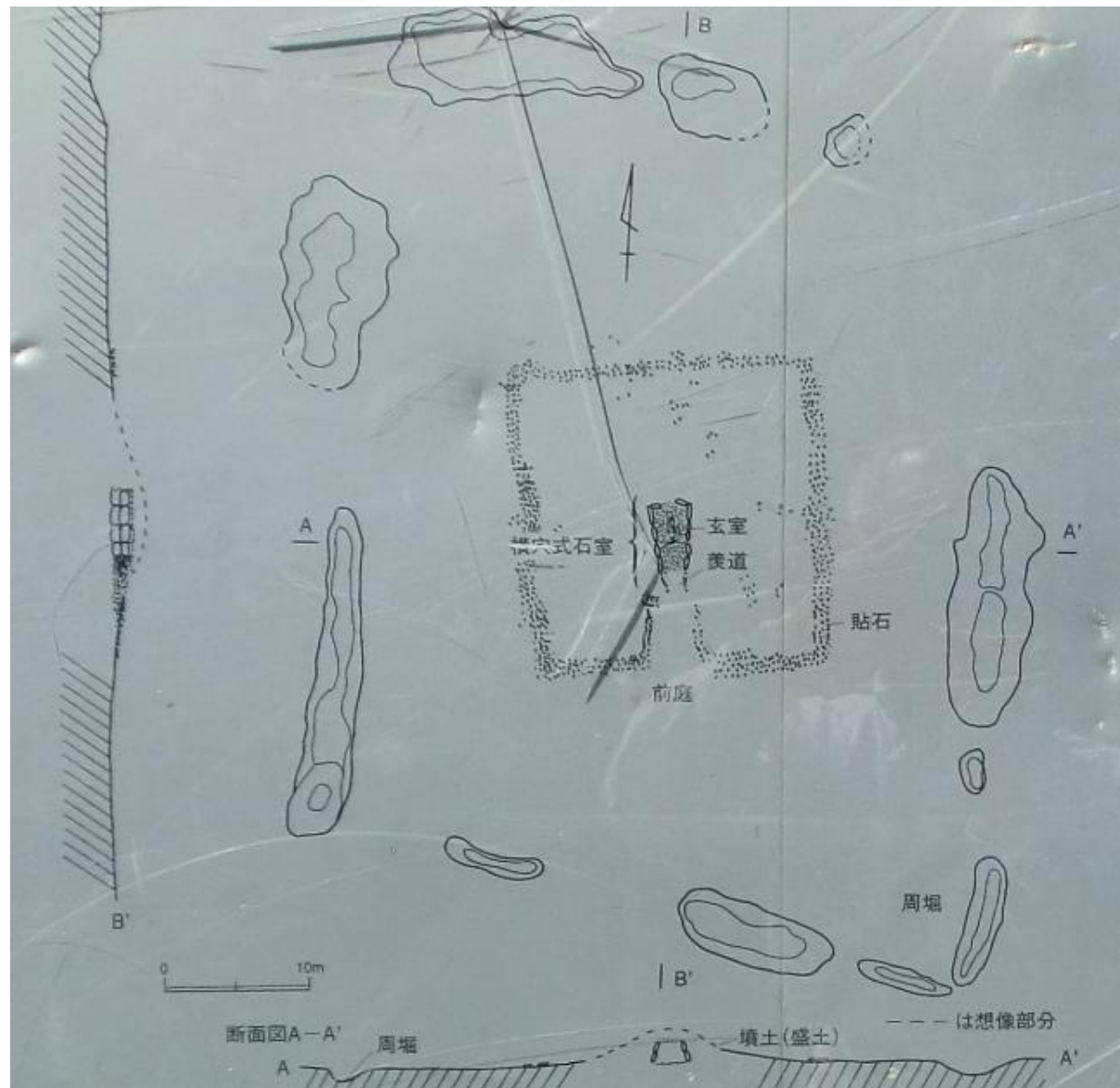




# 位置图







これが横穴式石室/奥が最大幅となる羽子板状をした複室構造/主体部下は版築によって地盤を突き固める、掘り込み地業が施されていたという





前庭(カラーコンクリートの部分)から玄室方向を見たところ



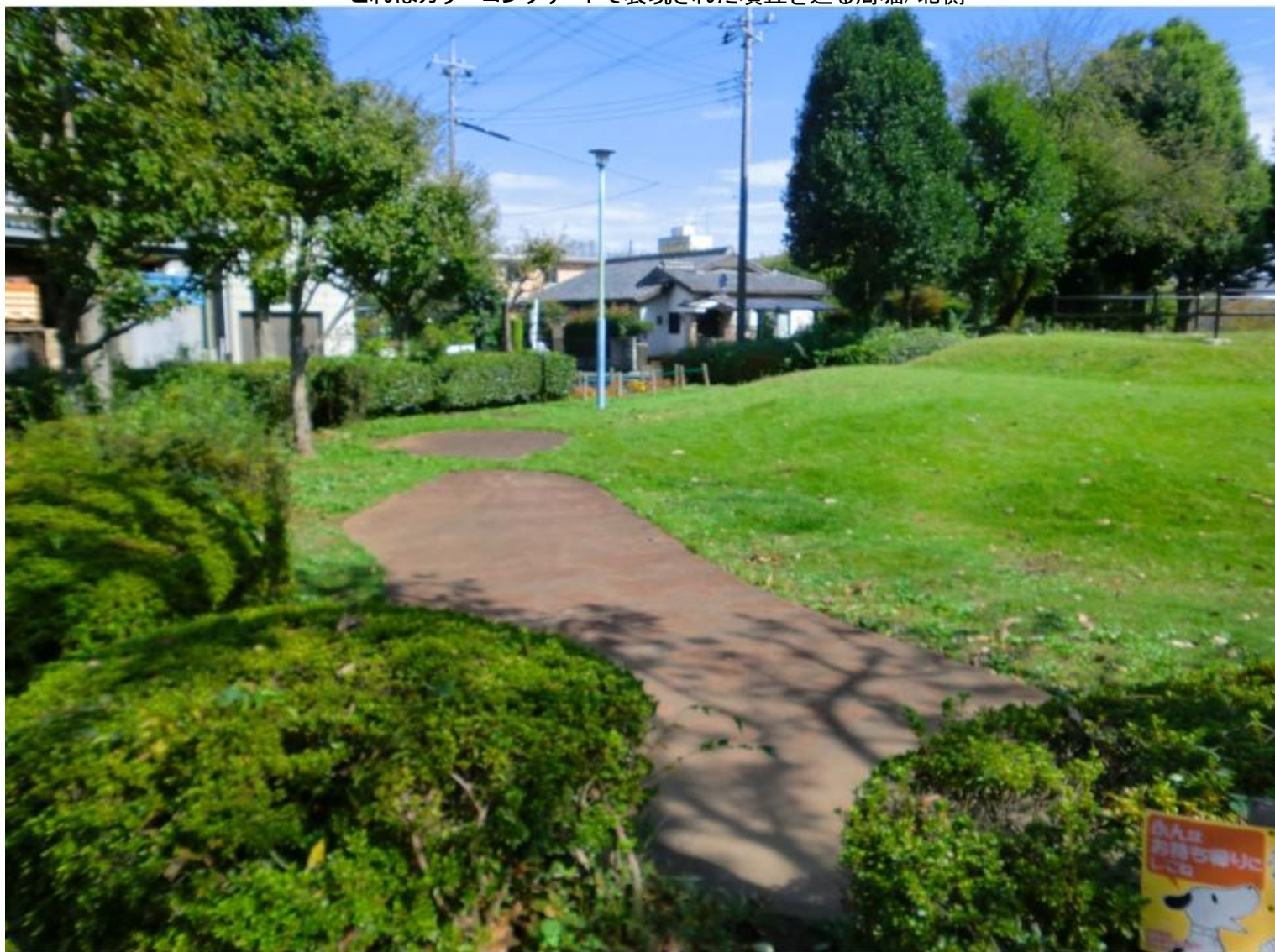


反対に玄室から前庭方向を見たところ





これはカラーコンクリートで表現された墳丘を巡る周堀/北側



同じく南側





参考ホームページ

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%B6%B4%E3%83%B6%E4%B8%98%E7%A8%B2%E8%8D%B7%E7%A5%9E%E7%A4%BE%E5%8F%A4%E5%A2%B3>

<http://homepage3.nifty.com/jh1eda/turugaokainarikohun.html>

<http://ckk12850.exblog.jp/10034007/>

